



子どもだけで作り出す

～プチこどものまち～



▲大府公民館で行われた「プチこどものまち」の様子

今月のレポーター

北岡 紀代美

至学館大学健康科学部こども健康教育学科4年生。市主催の、若者や子ども向けのイベントに参加した経験を楽ししく紹介していきたいです。



子どもたちが自らが企画・運営し、遊びだけでなく、「働く」「お金を稼ぐ」「納税する」といった模擬社会を体験することで社会の仕組みや人の関わりを学ぶイベント「こどものまち」。平成27年に市制45周年記念事業として行われたこのイベントは、以来、公民館まつりの中で規模を縮小し「プチこどものまち」として開催されています。今年も北山、大府、吉田の公民館まつりの中で行われました。

「プチこどものまち」では子どもスタッフ(小・中学生)が中心となり、大人スタッフ(大学生など)のサポート

トを受けながら、どんなお店にするのか、どのように運営するのかを会議を重ね、決定します。実は、私も第1回から大人スタッフとして参加しています。最初は何となくで参加していた子どもたちも自分たちでイベントを企画していくことで、責任感が生まれるようで、ある子どもスタッフの保護者さんからは会議から帰った子どもが自分から準備に必要なものを考え、相談してくるので驚きました」という声がありました。

イベント当日は、工夫を凝らした店が並び、子どもたちはハローワークで仕事を運び、働くことで独自の通貨「ハピ」を稼ぎます。稼いだ「ハピ」は、一部を税金として納めることで、公民館まつりで使える金券と交換できます。会場では、自分で稼いだ金券で、うどんを食べたり、ジュースを飲んだり、他のブースを楽しんだりする子どもたちの姿を見ることができました。

私が参加した大府公民館の子どもスタッフは、当日、遊びにくる子が増えてくると、それまではしゃいでいた姿から一変し、キビキビとお客さんを案内したり、お店で行うゲームのルールを説明したりしていました。彼らの活躍で、昨年よりも



▲受付担当のスタッフ

ブースが賑わっていたように感じました。終わった後、子どもスタッフに話を聞くと緊張したけど、お客さんからありがとうと言ってもらえたりして、楽しかったとやりがいを感じられたようです。また、お客さんとして遊びに来た後、働く側に回った子が終わり掛けに「働くのも案外楽しいかも」と友達に声をかけている姿がとても印象的でした。

やりがいや成長を感じたのは子どもたちだけではないようで、保育士志望の大人スタッフは「子どもとの上手な接し方を学びたい」と思い、参加しました。プチこどものまちを行う中で、子どもたちを集中させるには、頭ごなしに注意するのはではなく、役割を与えることが大切だと学びました」と満足気でした。

子どもスタッフも大人スタッフも成長がある「プチこどものまち」は来年も開催される予定です。知っている人も、知らなかった人も、また来年をお楽しみに!!

あきな
苦労を重ね、挑戦し続けた商い(飽きない)人生



ただし
久野正さん・すみ子さん
 (85歳・84歳、北崎町)
 入籍：昭和32年2月8日
 (寄り添い60年)

◆馴れ初めを教えてください。

【すみ子】豊明市の油屋さんが縁で出会いました。お父さんが油屋さんで働いていて、私は、その社長さんのいとことお友達だったことから紹介を受けて。

◆趣味を教えてください。

【正】昔はゴルフに熱中したね。ホールインワンは3回も経験があるんだよ。今は、テレビで暴れん坊将軍や水戸黄門をよく見るよ。

【すみ子】私は、老人会などで毎週グラウンドゴルフやカラオケに行ったり、蔵福寺の庵主さんのサロン(お話し会)にも出掛けています。この年でもお話のできる仲間ができてうれしいんです。

◆敷地にぶどう畑と米穀店がありますね。

【正】幼少期は貧しくてとても苦労したから、結婚してからは夫婦でいろんな商売をやってきた。他にもいろいろやったけど、全部自分たちで始めたよ。(手作りのご自身の年表を見せていただきました！)

◆夫婦円満の秘訣は。

【すみ子】一番は、それぞれ好きなことをやっているのがいいのかもね。

【正】昔から野暮とハチの巣には手を出すなっていうでしょ(笑)。それと時にはガマンも必要。・・・っておれはよく、「北海道」って言われるんだ。湿原(失言)が多いってね！

◆いきがいは。

【正】やっぱり「健康」。病気もしたけど、この年までよく二人でこれたなと思うよ。

みんなに
ごあいさつ

3歳以下のおおぶキッズをご紹介！
 掲載希望の方は広報広聴課へご連絡ください。
 広報広聴課 ☎(45)6214



神谷 悠仁さん
 平成28年9月25日生まれ
 勇也さん(父) 美緒さん(母)

はじめまして。しゅうとです。サッカーの大好きなパパが名付けてくれました。毎日はいはいでボールを追いかけて特訓中です。たくさん友達を作って早くサッカーがしたいな。めざせ日本代表！！



有尾 環希さん
 平成29年1月23日生まれ
 将成さん(父) 友巳さん(母)

「あーあー！ねんねっ！」みんながびっくりするくらい大きな声でお話するのが大好き！たまきです。毎日元気いっぱい！これからももっと大きくなって、お友達もたくさんできるといいなっ！

広報おおぶの紙面を飾ってくださる方を大募集！

募集しているのは、「金婚カンコン」「みんなにごあいさつ」「表紙などの読者モデル」。掲載された方には、掲載した写真を、広報おおぶの表紙風に加工してプレゼント。記念に1枚いかがですか？ 詳細は市ホームページをご覧ください。

問い合わせ 広報広聴課 ☎(45)6214

ゆるキャラグランプリ

2017 エントリー中!



投票期間：11月10日(金)まで



投票方法：ゆるキャラグランプリホームページ「投票はこちら」から投票。

残すところあと10日!!
1日1票、投票お願いします。

新目標は

- ①50位以内!
- ②70,000票!



認めあおう！ 自分らしさ

青少年女性課 ☎(45)6219

DVの相談事例



今回は、DVの相談事例を紹介します。

■相談事例

つわりで家事ができない時、夫から「やりたくないから、嘘をついているんだろう」と言われた。最初は口調が荒くなる、ものに当たるという程度だったが、そのうち毎日「お前は何をしてもダメだ」「口答えをするな」と言われるようになり、自分に自信を無くしていった。しかし家庭内のことであるし、自分にも非があるのではという思いから、誰にも相談することができなかった。

■解決までのプロセス

女性は、このように悩んでいた時、「女性のための電話相談」の存在を知り、勇気を出して相談してくれました。相談員が寄り添い相づちを打ちながら話を聞く内に、徐々に気持ちを整理することができ、その時初めて、自分が夫から受けている行為が「精神的なDV」であることに気付いたそうです。結果として、親に打ち明け、実家に避難することで、夫と離れることができました。

この事例のように、被害者が1人で抱え込んでしまったり、DV被害に気付いていない場合も少なくありません。悩んでいる人は、1人で悩まずに誰かに相談してください。また、相談を受けた人は批判をせず、しっかりと話を聞き、「あなたは悪くない」と安心させてあげることが大切です。



消費生活相談

いきなり訪問、買い取りを行う業者には注意！

■相談事例(40代・女性)

突然「不用品があれば買い取る」と男性が訪問してきた。いろいろな洋服などを出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪などを含めて2万5千円で買い取ってもらった。

その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。



■事例に関するアドバイス

- 自宅で物品を買い取ってもらう訪問購入では、購入業者は突然訪問して勧誘することはできません。このような行為を行う購入業者を家に入れないようにしましょう。
- 購入業者は、前もって電話などで連絡した場合でも、消費者が事前に承諾した買い取り対象以外の物品について売却を求めることはできません。「貴金属はないか」などと当初とは違う物品の売却を突然求められたときは、きっぱりと断りましょう。
- 訪問購入はクーリング・オフができます(法律で定められた書面を受け取った日を含めて8日間)。この期間内は購入業者に物品を引き渡さないこともできるので、トラブルを防ぐ一つの方法となります。

商工労政課 ☎(45)6227 ■消費者ホットライン ☎188 ■市消費生活センター ☎(45)4538

広 告

財源確保などのため、有料広告を掲載しています。

財源確保などのため、有料広告を掲載しています。広告内容は、市が推奨するものではありませんので、広告主へ直接お問い合わせください。



弱い自分と決別し、強気でつかんだ世界一

奥野 春菜さん

8月にパリで開催されたレスリング世界選手権の女子55kg級で金メダルを獲得した至学館大学1年の奥野春菜さん。

初出場で初優勝。優勝が決まった瞬間を「優勝できると思っていなかったの、素直にうれしかった」と振り返ります。試合後、日本にいるお父さんに報告すると「褒めたり、おめでとうを言ったりするタイプではないお父さんからのお祝いの言葉がうれしかったです」と笑顔で話します。

2歳半でレスリングを始め、吉田沙保里さんの父栄勝さん主宰の教室に通っていた奥野さん。吉田さんの後継者と言われることも多い奥野さんですが、「吉田さんは私にとって『神様』。後継者ということに捉われず、自分は自分と思っています」と力強く話します。

高校時代、弱気になることが多かった奥野さんは、「心の中にいつもマイナスイメージがあつて、どれだけ練習してもある程度のところまでしか行けないのではと思っていました」と当時を振り返ります。転機は至

学館大学に入学してから。「みんな五輪に出たいという強い気持ちを持つてつらい練習をしているので、自分だけ甘い考えではだめだと思いました。目標を見失わないようにひたすら練習して、弱い自分を奮い立たせています」と強くなれた秘密を明かします。

今後の夢は「東京五輪に出場して、金メダルをとりたい。そのためにも今は、11月のU23世界選手権と12月の全日本選手権で優勝したい」と話す奥野さん。大きな目標を見据えながら、一つ一つ目の前の目標に向かって進んでいきます。



来たる、11月12日は大府シティ健康マラソンの開催日。自分では、雨男の自覚は無かったのですが、私が広報担当になってから毎年、マラソン大会当日は雨天が続いていました。ところが、去年は奇跡的？に快晴で、参加者の皆さんは秋晴れのもと、颯爽とゴールを目指し、駆け抜けていました。今年も晴れると良いですね。(藤)